



生誕130年

# 橋本関雪展

*Hashimoto Kansetsu Retrospective*

豪腕画人 関雪登場

2013年 9月14日(土) ▶ 10月20日(日)



## 開催趣旨

本展覧会は、兵庫県ゆかりの日本画家、はしもと かんせつ橋本関雪の生誕130年を記念して開催します。橋本関雪は1883(明治16)年、旧明石藩の藩儒であった橋本かいかん海関を父として、現在の神戸市中央区に生まれました。12歳から日本画を学びはじめ、1903(明治36)年竹内せいはう栖鳳の画塾竹杖会に入門し、研鑽を積みました。1908(明治41)年の第2回文展で初入選、その後文展で入選、受賞を重ね、やがて官展の代表的画家としての地位を確立します。漢学の深い教養にもとづき中国の古典に取材した数々の作品を発表したほか、石濤や八大山人などの明末清初の文人画家に傾倒し東洋画の本質を南画なんがに見出した関雪は、新南画とよばれる新領域を拓きました。また動物画にも優れた力量を発揮、多くの名作を残しています。

1934(昭和9)年帝室技芸員、1935(昭和10)年帝国美術院会員などを歴任するなど大正から昭和にかけての日本画壇で大きな足跡を残し、戦争中は戦地へ赴き聖戦画などを制作しましたが、終戦を見ずに1945(昭和20)年2月、狭心症の発作により亡くなりました。

今回の展覧会では、文展、帝展への出品作である六曲一双の屏風の大作を中心に、約70点の作品で画業を回顧するとともに、彼の南画への関心にも焦点をあて、関雪独自の美意識、絵画観について考察します。

## 会期等

2013(平成25)年9月14日(土)～10月20日(日)

休館日:9月17日(火)、24日(火)、30日(月)

※神戸ビエンナーレ開催に伴い、10月は無休

開館時間:午前10時～午後6時

※金・土曜日は夜間開館(午後8時まで)

※入場は閉館の30分前まで

会場:兵庫県立美術館 企画展示室

主催:兵庫県立美術館・朝日新聞社

後援:公益財団法人伊藤文化財団・兵庫県・兵庫県教育委員会・神戸市・

神戸市教育委員会・Kiss FM KOBE

協賛:一般財団法人 みなと銀行文化振興財団

協力:公益財団法人 橋本関雪記念館



橋本関雪(1883-1945)

## 本展のみどころ

### ①当館では36年ぶりの開催

橋本関雪の生誕の地、神戸で開催するのは、1977(昭和52)年に兵庫県立近代美術館で開催した「橋本関雪展」以来、実に36年ぶりに開催する回顧展です。

### ②初期から晩年までの代表作が集結

本展は、会期34日間、当館のみで開催します(巡回はいたしません)。単独開催ということもあり、全国の所蔵家から多くの名作の出品が叶いました。関雪の名品が一堂に会する貴重な機会となります。

### ③回顧展初出品の作品や、新発見の作品なども展示

官展に出品された大作のほか、各地の所蔵家のご協力により、回顧展に初出品される作品や、関雪のごく初期の珍しい作品なども展示します。

## 観覧料

一般1,300(1,100)円、大学生900(700)円、

高校生・65歳以上650(550)円、中学生以下無料

※( )内は、20名以上の団体割引料金

(高校生・65歳以上は前売なし)

※障害のある方とその介護の方1名は各当日料金の半額

(65歳以上除く)

※チケットはチケットぴあ(Pコード:765-799)、

ローソンチケット(Lコード:55581)、

セブンチケット(セブンコード:025-215)等で販売

※9月29日までは、クルスポット指定期間として、有料チケットでの観覧者に、「昭和モダン 絵画と文学1926-1936」(11/2～12/29)の特別招待券を進呈します。

※「神戸ビエンナーレ2013」の有料チケット半券のご提示で、団体割引料金でご覧いただけます。

## 展覧会構成

### 第1章

#### 初期の作品～文展入選まで

元明石藩の儒者、橋本海関を父として神戸・坂本村（現在の中央区楠町）に生まれた橋本関雪は、漢学、詩文に長じ、古美術にも深い見識を持っていた父の影響により、幼い頃から漢籍に親しみ、その教養を身につけました。12歳から本格的に日本画を学び、21歳のとき竹内栖鳳\*の画塾竹杖会に入門、京都と神戸とで制作三昧の日々を過ごします。本章では、このたび新発見の作品を含め、若くして優れた才能を発揮した関雪の最初期から、1908年に第2回文展へ初入選するまでの作品を展示します。

#### \*竹内栖鳳（たけうち・せいほう1864-1942）

近代の日本画壇を代表する画家。京都を拠点とし、四条派の画法に西洋の写実を採り入れ、日本画の近代化に大きな役割を果たした。後進の育成にも尽力し、画塾竹杖会（ちくじょうかい）を主宰、上村松園や西山翠嶂など多くの逸材を育てたことでも知られる。1937年第1回目の文化勲章を受賞。

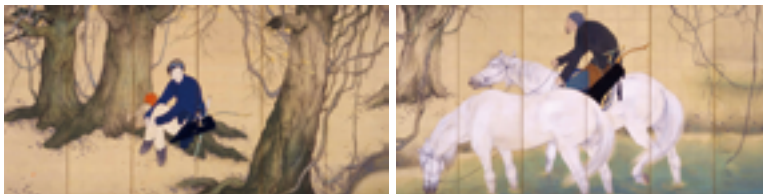
### 第2章

#### 文展での活躍

1908年の第2回文展入選以降、連続して文展に入選、関雪は堰を切ったかのごとく画才を発揮、代表作がこの時代つぎつぎと生み出されていきます。本章では、中国の古典や、日本の歴史的題材を描いた作品、さらに中国への旅の印象をもとに制作した作品など、明治末から昭和初期にかけての文展、帝展への出品作を中心に展示します。六曲一双の大画面に展開される雄渾、華麗な絵画世界はまさに圧巻であり、関雪芸術のひとつの到達点といってもよいでしょう。



せんじよ  
 4.《僮女》 1926年  
 西宮市大谷記念美術館蔵



もくらん  
 2.《木蘭》 1918年 DIC川村記念美術館蔵



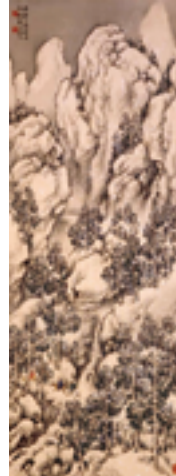
なんこく  
 3.《南国》 1914年 姫路市立美術館蔵



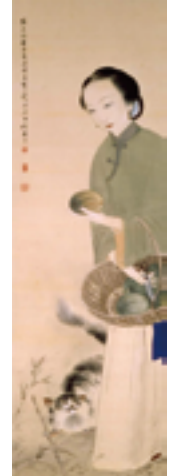
### 第3章

#### 南画と関雪

この章では、関雪の南画への関心を示す作品を紹介します。中国書画や文物に対する愛着は、関雪の芸術の根底にあります。大正半ばごろからその傾向が顕著になります。この時期、ヨーロッパ旅行にも出かけ、後期印象派の諸作品に衝撃を受ける一方で、ますます東洋画、南画への確信を深めていきました。画家として、いよいよ充実期に入った関雪は、日本人画家としての自らの立ち位置を再確認すべくさかんに著述をおこない、制作の上でも様々な表現を試みます。新南画とよばれる色彩豊かな山水画、白描による作品、大和絵風の作品など一つのスタイルにとどまらない多彩な世界を紹介します。



とうりんきさんず  
 5.《凍雲危棧図》 1916年  
 公益財団法人 橋本関雪記念館蔵



てつかず  
 6.《摘瓜図》 1925年頃  
 姫路市立美術館蔵

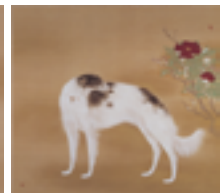
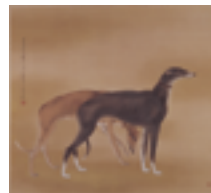
### 第4章

#### 動物画の世界

関雪の名を不朽ならしめ、文部省買い上げとなった代表作、第14回帝展出品作《玄猿》(1933年・東京藝術大学蔵)をはじめとする動物画の名作を本章では紹介します。後半生に集中的に描かれた動物画は、中国の画題や風物へ心を寄せたそれまでの作品とは全く異なる趣で描かれており、動物の一瞬の表情や動きを巧みにとらえて描く、四条派の動物画の伝統を関雪が確かに継承していたことを伺わせます。動物画の制作は、円熟期を迎えた画家が心機一転、もう一步新たな境地に臨もうとした、ひとつの挑戦であったとみることもできるでしょう。



げんえん  
 7.《玄猿》 1933年  
 東京藝術大学蔵

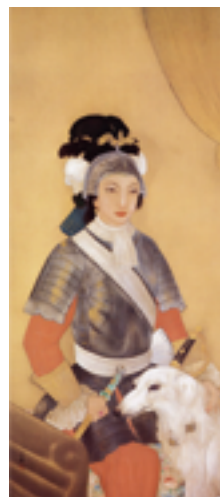


とうけんず  
 8.《唐犬図》 1936年 大阪市立美術館蔵 ※10月13日まで展示

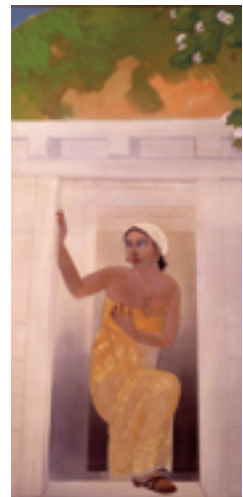
### 第5章

#### 戦争そして晩年

関雪の晩年は戦争という時代の下にあり、関雪のみならず同時代の美術家たちが彩管報国というスローガンのもと様々な制約の中で絵を描かねばならない状況にありました。そのような中、彼は日本画壇を代表する画家のひとりとして、求められた責務を果たし、旺盛な創作活動を行いました。本章は、戦争に関連のある主題を描いた関雪晩年の作品を展示します。



こうしゅうそう  
 9.《香妃戎装》 1944年  
 衆議院蔵



ぼうくごう  
 10.《防空壕》 1942年  
 東京国立近代美術館蔵

## 関連イベント

### 記念講演会 「発想力ー芸術の力」

講師：安藤忠雄

9月21日（土） 15:00～

ミュージアムホールにて 聴講無料（要展覧会チケット・定員250名）

※整理券は13:00～ホワイエにて配布予定（1人2枚まで）

※安藤忠雄氏の直筆サイン入り著書を抽選で10名の方にプレゼント

### 記念講演会 「橋本関雪の南画における西洋と中国」

講師：稲賀繁美（国際日本文化研究センター教授）

9月22日（日） 14:00～（約90分）

ミュージアムホールにて 聴講無料（要展覧会チケット・定員250名）

共催：兵庫県立美術館「芸術の館友の会」

### ギャラリー・トーク 「関雪の絵を見る」

講師：橋本眞次（公益財団法人 橋本関雪記念館理事長・橋本関雪曾孫）

10月6日（日） 14:00～（約60分）

企画展示室にて（当日1時55分に展覧会場入口に集合）

聴講無料（要展覧会チケット・定員50名程度）

### 学芸員による解説会

9月21日（土）、10月5日（土）、10月19日（土） 16:00～（約45分）

レクチャールームにて 聴講無料（定員100名）

### ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中の毎週日曜日 11:00～（約15分）

レクチャールームにて 聴講無料（定員100名）

### おやこ解説会

9月28日（土） 13:30～（約30分）

レクチャールームにて 聴講無料（定員100名）

### こどものイベント「日本画を描こう！」

10月12日（土） 10:30～15:30

アトリエ2にて 有料（定員30名）

要事前申込／問い合わせ先：こどものイベント係 078-262-0908

## 同時開催の展覧会

神戸ビエンナーレ2013 「横尾忠則 感応する風景」

Yokoo Tadanori: Landscape Paintings

10月1日（火）～12月1日（日）

会場：兵庫県立美術館 ギャラリー棟3階

※神戸ビエンナーレ2013前売券を県立美術館1階ミュージアムショップで販売しています。

※前売券の販売は9月30日（月）まで

## コレクション展Ⅱ

特集 新収蔵品紹介 「信濃橋画廊コレクション」を中心に

小企画 美術の中のかたち 一手でみる造形

「近いかたち、遠いかたち」岡普司・重松あゆみ・中西學一

7月6日（土）～11月10日（日）

会場：兵庫県立美術館 常設展示室（1階・2階）

※橋本関雪《峡江の六月》という六曲一双の作品を展示しています。

「横尾忠則 どうぶつ図鑑」YOKOO'S YOKOO ZOO

7月13日（土）～9月16日（月・祝）

「横尾忠則 肖像図鑑」HUMAN ICONS

9月28日（土）～2014年1月5日（日）

会場：横尾忠則現代美術館

※特別展又はコレクション展の有料チケット半券のご提示で、団体割引料金でご覧いただけます。（詳細はHPなどでご確認ください）

## 広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

## お問い合わせ先

### 兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

### 企画内容に関すること

担当学芸員: 飯尾由貴子・相良周作

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

e-mail: iio@artm.pref.hyogo.jp (飯尾)

e-mail: sagara@artm.pref.hyogo.jp (相良)

### 取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

## 交通案内

阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅から南に徒歩約10分

阪急神戸線王子公園駅から南西に徒歩約20分

神戸市バス・阪神バス「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場: 乗用車80台収容・有料

\*ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

\*団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



# 生誕 130 年 橋本関雪展


**兵庫県立美術館**  
 HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART  
 〒651-0073  
 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1  
 電話 (078) 262-0905 (直通)

**広報画像申込書** 営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

| 番号        | 作家名・作品名・制作年                       |
|-----------|-----------------------------------|
| 1<br>(表紙) | 《狐》 1915年 公益財団法人 橋本関雪記念館蔵         |
| 2         | 《木蘭》 1918年 DIC 川村記念美術館蔵           |
| 3         | 《南国》 1914年 姫路市立美術館蔵               |
| 4         | 《僊女》 1926年 西宮市大谷記念美術館蔵            |
| 5         | 《凍雲危棧図》 1916年 公益財団法人 橋本関雪記念館蔵     |
| 6         | 《摘瓜図》 1925年頃 姫路市立美術館蔵             |
| 7         | 《玄猿》 1933年 東京藝術大学蔵                |
| 8         | 《唐犬図》 1936年 大阪市立美術館蔵 (10月13日まで展示) |
| 9         | 《香妃戎装》 1944年 衆議院蔵                 |
| 10        | 《防空壕》 1942年 東京国立近代美術館蔵            |

※上記画像を媒体掲載される際には、**タイトル、制作年、所蔵館**は必ず入れてください。

※今回「六曲一双屏風」「二曲一双屏風」など、2点1組の作品が多く出品されます。(画像番号：1、2、3、8)

その場合、どちらか一方を使うとき、**左側の場合は(左隻)、右側の場合は(右隻)**を記載するようにしてください。

**例：《狐》(左隻) 1915年 公益財団法人 橋本関雪記念館蔵**

※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。ご了承ください。

※トリミングおよび文字や他のイメージを重ねることはできません。

※7. 《玄猿》インターネットで使用の場合は、長辺 500pixel 以下の解像度としてください。

|  |                              |      |  |
|--|------------------------------|------|--|
| 貴社名  |                              |      |  |
| 媒体名  | 新聞・雑誌・ミニコミ<br>TV・ラジオ・インターネット |      |  |
| ご担当者名  |                              |      |  |
| ご住所  | 〒                            |      |  |
| 電話番号   |                              | FAX  |  |
| メールアドレス  | @                            |      |  |
| URL  |                              |      |  |
| 掲載・放送予定日   |                              |      |  |
| 画像到着希望日  |                              |      |  |
| 読者・視聴者プレゼント用招待券(最大10組20名まで本展を媒体でご紹介いただける場合に限ります) | 組                            | 名分希望 |  |
| メールマガジンをお持ちですか?                                  | はい ・ いいえ                     |      |  |
| メールリストをお持ちの場合、当館の展覧会・イベント情報等を送信していただく事は可能ですか     | 可 ・ 不可                       |      |  |

※ 本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体 (VTR/DVD) などを、上記営業・広報宛にお送りくださいますようお願いいたします。

※ 本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。